

## 平成20年度 学校自己評価並びに関係者評価

### A(1)授業公開や研究会を実施し、授業研修の充実と教育環境の改善及び危機管理の徹底を図る。

具体的方策(取組内容・状況)	自己評価	改善の方策	関係者評価
①授業公開週間の充実と研究会の実施をさらに充実させる。	1.02	●評価も非常に高く、全職員の意識も高い。春・秋2回実施の意見もあるが、次年度については今年度と同様1回の実施とし、各教科ごとの学期の目標設定と達成度などについての研究会にすると同時に全体研修など内容面での充実を図る。	A-5 B-2 BorC-1
②授業改善のためシラバス、評価基準を作成する。	0.1	●本年度は地歴公民科が先行し、シラバスの作成をし、3月に公開予定。次年度は全教科シラバスを作成する。達成目標や評価基準については22年度へ向け、各教科ごとに検討を進める。	
③学力向上と生徒・保護者が満足する授業改善、教育環境作りの徹底。	0.47	●学力向上については教師の問題意識が、非常に高い。学力向上検討委員会の設置も考慮に入れながら、当面は教育課程研究委員会で検討を継続する。SB委員会やCプロジェクト・理系プロジェクトの推進を図り、目標の明確化を実現する。	
④危機管理の対応としての避難訓練・救急救命の研修会の実施。	0.97	●避難訓練・救急救命の研修など内容も充実できた。今後は緊急放送設備・消化器や更新なども必要である。	

#### <関係者評価>

●教職員の意識の高さ、取り組みへの意欲を感じる。●学力向上については、生徒の意識改革が必要。●先生方の努力がとても感じられる。100%とはいかないにしても十分に高い評価ができる。●A(1)とA(2)は、「教育の設計と実施」の観点から統合し、「教育及び教育支援環境の整備」の観点で、A(1)③、④を分化した方が良いと考える。●授業態度向上委員会の推進。

### A(2)生徒の実態と進路目標に合わせた「教育課程」の策定と各科に合わせた計画的資格取得と補習の実施。

具体的方策(取組内容・状況)	自己評価	改善の方策	関係者評価
①普通科では、BROADコースの2年生からの選択科目の充実。	0.89	●BROADコースの選択科目の刷新はできた。普通科の類型については目標と取り組みの明確化を検討する。	A-6 B-1 BorC-1
②普通科は模試において偏差値50の得点が取れるように各教科で分析と補充の計画。	-0.05	●唯一マイナスの評価が出た項目であるが、具体的な偏差値50という数値を目標にあげたため、実態とのギャップがありすぎた。普通科ということでの目標であったが、類型によっても模試に対する取り組みが異なり、目標の立て方についても再検討する。次年度の重点目標の設定については模試と授業との連携や模試受験などについても類型ごとの検討を要する。早急に議論し、具体的方策を検討中。	
③模試受験者に対して、事前・事後指導を毎回行う。また、授業との関連を図る。	0.33	●模試の事前・事後の指導は実施した。授業と模試の連携については現状では非常に大きな課題である。継続した議論を重ね、教科間のコンセンサスも図る。	
④商業科では、新たな教育課程(平成20年度入学生より実施)の科目選択を編成する。	0.49	●学校視察などを行い先進校の取り組みを参考にして具体的な取り組みにする。	
⑤商業科においては夏季・春季休業中に簿記セミナーを計画的に実施する。	0.56	●今年度末に専門学校との連携により集中セミナーを実施予定、その成果の検証を行い、今後の取り組みを検討する。	
⑥情報処理では、情報系大学進学に応じた選択科目の配置を編成する。	0.89	●教育課程の作成に対し、今後の対応に大きく前進した。数学科と情報処理科の連携を強化し、目標達成のための取り組みを進める。	
⑦情報処理科においては国家試験情報処理技術者試験合格に向けて春季集中セミナーを実施する。	1	●一部の先生方には負担もかけているが、計画的に実施され、成果も上がっている。今後も継続し、生徒のニーズに応えるべく内容の検討。	
⑧就職指導の取り組み強化。学年に応じた職業ガイダンスの実施や企業開拓と共に本校生の能力、学力などをPRする。	0.81	●就職指導の取り組みについては年間計画に組み入れ、実施できた。「キャリアマトリックス」を使用し進路指導を行う。	
⑨インターンシップなどの体験活動を実施する。	0.59	●情報処理科での実施はできた。受入企業数が少ないため、商業科までは広げられない現実もある。内容についても生徒のニーズに合った企業の開拓に努める。	

#### <関係者評価>

●各科、各コースでの細やかな生徒への対応がなされている。●3学科併設校であり、大変難しい事項だと思うが、適切に対処されている。●先生方の努力がとても感じられる。100%とはいかないにしても十分に高い評価ができる。●教育事業管理の基本は、科毎の人材育成目標とそれを達成するに最適化されたカリキュラム(教育体系、シラバス、教育計画(スケジュール))評価にあると考える。これらの自己点検と第三者評価を詳細に実施している。●授業態度向上委員会の推進によって改善される。●進路に合わせた授業は難しいと思われるが、将来に大学を受験を希望したい時に単位が取れている内容も含めて考えて欲しい面もある。

B(1)(2) 社会規範や校則を遵守できる生徒の育成。社会人としてのあいさつやビジスマナーの徹底。

具体的方策(取組内容・状況)	自己評価	改善の方策	関係者評価
①朝礼やHRなど折に触れ、社会規範や校則の重要性や社会人としての人間関係を円滑にするあいさつやビジスマナーなど生徒会や教員から率先して、全校生に浸透させる。	0.68	●朝礼・集会・HR等でマナーや挨拶などについての指導を行い、全体的には改善された。校外など目の届かないところでも実践できるよう、保護者の協力も得ながら継続指導する。	A-5 B-3

<関係者評価>

●卒業式における生徒の態度や来校者への生徒のあいさつなど指導の成果を強く感じる。●とにかく根気よく続けることが大切。●幅広い評価項目に立ち向かって次年度以降の継続に大いに期待。●①が改善できることが前提。●朝の出勤時に色々な学校の生徒に会うが自転車もふくめて、全体的に良くなってきている。大人も挨拶をまずやることから始まると思う。

B(3) 部活動の活性化を図り、近畿・全国大会出場する。

具体的方策(取組内容・状況)	自己評価	改善の方策	関係者評価
②クラス減に伴い、生徒数が少なくなっているが、積極的な勧誘により、部活動の入部率を高める。(退部者に対しても他の部への入部を勧める)各部各種大会で近畿・全国大会出場を目指す。	0.04	●活性化と一言でいっても難しい。入部率を上げるか、全国・近畿を目指す部活動を目指すか、施設設備や指導者でどうするのかなどいろいろな意見が出ているが、現実的にできる範囲で考えていかなければならない。現在も文化部などでも全国大会にも出場している。生徒減もあり、部の数なども現在検討している。神戸市の強化指定を受けている部もあり、それぞれの部での地道な取り組みを継続する。施設・設備や指導者の問題も課題である。	A-2 B-6

<関係者評価>

●規模の大きな大会への出場も大きな意義があると思うが、生徒の満足度も評価対象に入れてはと思う。●自己評価が低いように思う。ただ、部活動と学力は表裏一体で難しい面もあるが、文武両道で頑張ってもらいたい。●これからの課題。●部員数の問題もあるが、部数が減ると退部者も多くなるのでは。外部指導員も考えては良いのではないかな。

B(4) ボランティア活動へ積極的に参加できる生徒の育成。

具体的方策(取組内容・状況)	自己評価	改善の方策	関係者評価
③ワークキャンプや施設への慰問などの参加を積極的に行う。	0.39	●一部の生徒や部活動では積極的に参加している。ボランティアに対する理解を全校生に徹底するには教師・生徒会の共同での取り組みを図る。	A-4 B-3 無記入-1

<関係者評価>

●改善の成果を期待する。●これからの課題。●継続的にできる様な、ボランティアの取組が大事。

C(1) 中学校への情報発信のための広報活動の充実

具体的方策(取組内容・状況)	自己評価	改善の方策	関係者評価
①中学校への学校新聞、パンフレット等の配布活動を行い広報の充実を図る。また、中学校訪問を実施し、在校生の近況報告や入試情報等の提供及び進学説明会、出前授業の案内を積極的に行う。	0.96	●評価の高い項目であった。中学校新聞やパンフについても年間を通した内容にし、各部署への記事依頼も年度当初に計画的に実施できるように図る。	A-6 B-2

<関係者評価>

●中学校への学校新聞の送付は中学校にとって誠にありがたく生徒にとっても有効な情報源となっている。●改善の成果を期待。●よく頑張っておられる姿に敬意を表す。●公立高校という点があると思うが、さらに個性がでる内容を期待。

C(2)「開かれた学校づくり」のための情報公開を積極的に行う。

具体的方策(取組内容・状況)	自己評価	改善の方策	関係者評価
②ホームページ上で保護者アンケート、授業アンケート、外部評価等の情報を公開する。	0.56	●集計や分析など計画的に実施できた。情報公開についてはどの程度のものにするか、検討する必要がある。	A-4 B-4

<関係者評価>

●情報公開については満足のいくものだとは思いますが、そのデータの収集について「保護者アンケート」の回収率アップ等が課題であると思う。●よく頑張っておられる姿に敬意を表す。●何が開かれたのか情報が欲しい。

C(3)小学校、中学校等、他校種及び地域との連携を充実させる。

具体的方策(取組内容・状況)	自己評価	改善の方策	関係者評価
③課題研究、総合学習等の授業を通して他校種、地域との連携を図る。	0.7	●他校種連携について多くの取り組みができた。小学校・大学・企業など内容についても充実していた。次年度については小学校との連携を拡げる。	A-7 B-1

<関係者評価>

●改善の成果を期待。●よく頑張っておられる姿に敬意を表す。●クラブ活動と地域の連携を推進していけば良い。大変かも知れないが、土日の小学校の開放教室も利用する手がある。

1:達成できた	+2
2:ほぼ達成できた	+1
3:あまり達成できなかった	-1
4:達成できなかった	-2

A:自己評価及び改善の方策は適当である
B:自己評価及び改善の方策は概ね適当である
C:自己評価及び改善の方策は適当でない
D:外部評価できない